



『新型コロナウイルス感染拡大予防のために』

広島県では8月末の感染者数は、東京や大阪などに比べると一けた台という発表ですが、全国的に家族間や職場内でのクラスター発生という報告が多く聞かれるようになりました。

保育園では、コロナ禍の中でも子ども達が楽しかったと思える日々を過ごせるよう色いろな工夫をしながら保育を展開しているところです。先月幼児クラスだけではありましたが、夏まつりも保護者の皆様と一緒に体験させてあげることができました。後日年長さんが体験したことを通して、夏まつりごっこと題して0、1、2歳さんを招待してあそび姿を見ていると、あそび方を身ぶり、手ぶりで説明をしたり、一緒にやろうとしたり、思うようにならない乳児さんに手を焼いたりする姿の中に異年齢交流の面白さを発見することもできました。

全ての子ども達やご家族が安心して保育園を利用でき、保育園でのクラスター発生の原因とならないよう、ご家族の中で咳や発熱など(37、5度以上)あったり、PCR検査を受けた場合の情報提供を必ず保育園の方にさせていただくとともに、PCR検査結果が陰性だったとしても症状が回復するまでの期間、家庭で様子を見るなどのご配慮やご協力をいただくようお願いいたします。

保育園では、今後も手洗い、消毒を徹底するとともに、室内や玩具の消毒はもちろんのこと、オゾン発生装置も備品購入し空気清浄や殺菌にも心がけたいと思っています。

【お知らせ】

運動会(運動あそびの会)について

10月3日(土)は、幼児の運動会(運動あそびの会)を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大の3密を防ぐため、ご来賓はなしとして参観日形式で各年齢が時差で開催する予定です。詳しいことは後日お知らせいたします。
なお乳児クラスにつきましては、11月14日(土)を保育参観と親子ふれあい運動あそびの会を開催する予定です。



令和2年 9月の保育園だより



未来を切り開く ～愛着の関係性の中で安心感を～

残暑が厳しい中ではありますが、保育園で飼育する鈴虫の鳴き声に(羽をすり合わせる動作)に秋の気配も感じる頃となりました。

この夏を0歳から6歳までの子ども達は太陽の下、多くの感覚を刺激する水を媒介に、プールでのあそびはもちろんのこと、土、砂、石、貝、石鹸、絵の具、糊、植物(葉、花、種、実、竹など)、いろいろな道具(家庭用品、ペットボトル、筆、スポンジなど)とコラボしながらあそびました。試したり、工夫したり、発見したりをくり返す中で、あそび方そのものが変化の様子や友達との関係性が広がる様子もドキュメンテーションという形でもお伝えいたしました。

とはいえ、子ども達の中にはあそびに集中できなかったり、ゴロゴロしたり、友だちに対して攻撃的だったり、自分自身を表現しにくいなど、自己肯定感が低いと感じられるケースは少なくありません。

保護者の皆様の中にも先月の家庭教育学級講演会、新宅博明先生への事前アンケートで質問が出たように、自分自身の感情制御ができず、子ども達に過度のストレスを与えているのではないかと、という悩みも持っている方もおられました。

先日、『特別なケアを必要とする子ども達の保育』に関する研修会(親と子どもの臨床支援センター・帆足暁子先生)において、発達障害と行動特徴が類似した愛着しょうがい非常に増えているという報告がありました。

胎児期、乳幼児期、思春期などの脳が外部からの刺激を受けやすい時期に、極度のストレスを受けるとその苦しみに

何とか適応しようと生き延びるための防御として、子ども達の症状としては、衝動性が高く、キレやすく乱暴になったり、喜びや達成感を味わう機能が弱くなることで、より強い刺激を求めたりするようになります。ゲームにはまってしまうのもその表れのひとつでもあるようです。

また、愛され、ほめられる経験が少ないと自己肯定感や自立を司る機能がうまくはたらかず抑うつ状態になったり自傷行為を繰り返すこともあるようです。

5歳までに大人側の意図があるないに関わらず、目立った外傷がなくても大人が不適切なかかわり方をすることが、その後の子ども達の人生に大きく関わるとしたら養育をする私達大人責任は大きいと言えます。

泣いても無視したり、抱っこしなかったり、ゲーム・ラインメールがやめられない、タブレットや携帯などモバイル機器にあやしてもらおうなどの行為をしていることはないでしょうか。

微妙福祉会グループ園の目指す『0歳からの幼児教育』『主体的な学びと状況判断』において、我が園でも今一度、愛着の関係に着目し、安心感を持つ環境の中で、一人ひとりとの対話を丁寧にしていくことが重要だと感じています。

愛着の関係は、早い時期であれば再構築できます。保護者の皆様が子育ての悩みを持つことは、愛着関係の第一歩で、気づかないでいるより素敵なことです。

人見知り、だだこね、噛みつき、自我の爆発など大人を困らせる行為こそ、しっかり受け止め、家庭や保育園が安心して自分を出せる場であることに自信を持ちながら、子ども達の未来を切り開く力(自己肯定感)の育成に力を注ぎたいものです。(園長 倉本弘子)



坂みみよう保育園

幼児クラス保育参観・家庭教育学級講演会

下記の日程で保育参観、家庭教育学級を開催いたします。夏のあそびを満喫した子ども達が、お友達と刺激し合いながらあそぶ様子をご覧いただきたいと思います。同時に家庭教育学級講演会では、保育園、小学校のスムーズな接続のための生活やあそびの大切さや家庭教育についてお話をさせていただきます。
さくらんぼ会教養部からの事前アンケートにも応えていただくようお願いしていますのでたくさんの皆様の参加をお願いいたします。

日時：9月5日(土)
登園～10時20分 各クラスでの保育参観
内容については保育参観のしおりを配布します。
10時30分～11時30分
家庭教育学級講演会 演題『根っこを育てる』
講師 坂小学校校長 根石郁子先生

※幼児クラスは、終了後降園です。午後からの保育を希望の方は、愛情弁当を持参させてください。
※未入園の託児については、事前申し込みの方以外の利用はできません。
※乳児クラスの弟、妹さんの保育は、事前調査で保育希望を受け付けましたが、家庭教育学級講演会に参加される場合のみ給食を食べます。



『防災の日によせて』

9月1日は、大正12年の関東大震災の教訓を忘れないため「政府が、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」とし制定された啓発日です。

ここところ毎年のように繰り返される災害のニュースから防災についての認識も高まってきているところではありますが、今一度防災についてご家族で話し合っておきましょう。

色いろな災害の中でも坂町では、平成30年の豪雨災害後、大雨土砂災害に対しては「①避難準備・高齢者等避難開始」→「②避難勧告」→「③避難指示」と災害の危険度が高くなる中で、砂防ダムなどの対応が完了するまで、早めの避難対応を発令されています。秋は台風シーズンともなります。保育園は大雨警報(土砂災害)が発令されても休園にはなりませんが、坂町より「②避難勧告」が発令された場合、速やかなるお迎えや登園を見合わせていただくよう携帯アプリ『きっすノート』にて配信することがありますのでご確認ください。

